



国立国際美術館は、2025年6月28日（土）から10月5日（日）まで、「非常の常」展を開催します。

私たちは今、常態化した非常事態を生きています。

理不尽な攻撃や突然のクーデター、地震、洪水、山火事などの自然災害によって、多くの人々が住む場所を失い、強制的な移住を余儀なくされています。未知のウイルスが突如私たちの生命を脅かした経験は記憶に新しく、それによる政治的混乱、人間関係の分断、日常の喪失は、今なお日々の暮らしに影を落としています。

生成AIなど人工知能を含むテクノロジーが飛躍的に発達し、私たちが目にするイメージや情報の真正性の判断は、時に極めて困難になりました。さらに、情報の流通が複雑なアルゴリズムに支配され、サイバー空間での攻撃がいよいよ本格化したこの超高度情報化社会では、誰もが生の根底に不安を抱き、焦燥感や抛りどころのなさを抱えています。

こうした「非常の常」の時代を、私たちはどのように生きることができるのでしょうか。本展では、8名の作家の表現を通じて、時代を見つめ、想像力を膨らませ、明日を生きる希望を探ります。

## 出品作家 ※変更となる場合があります

シプリアン・ガイヤール（1980年生まれ、ドイツ／フランス拠点）  
Cyprien Gaillard

潘逸舟（1987年生まれ、日本拠点）  
Ishu Han

クウワイ・サムナン（1982年生まれ、カンボジア拠点）  
Khvay Samnang

キム・アヨン（1979年生まれ、韓国拠点）  
Ayoung Kim

リー・キット（1978年生まれ、台湾拠点）  
Lee Kit

高橋喜代史（1974年生まれ、日本拠点）  
Kiyoshi Takahashi

米田知子（1965年生まれ、イギリス拠点）  
Tomoko Yoneda

袁廣鳴（ユエン・グァンミン）（1965年生まれ、台湾拠点）  
Yuan Goang-Ming

## 本展の見どころ

### ◎展覧会を通して考える「非常の時代」

地震、山火事、洪水、津波、かつてない気候変動などの天変地異。クーデター、侵略、戦争、突然の世界的経済危機など、地球上のあらゆる混乱は加速度を増しています。一見、穏やかで美しい風景を切り取ったかのような米田知子の写真が撮影されたのは、休戦状態で今も緊張が続く韓国と北朝鮮の間の非武装地帯（DMZ）。袁廣鳴（ユエン・グァンミン）は、居心地の良い居住空間が何者かによって次第に破壊されていく、戦争と背中合わせの日常を描き出しています。精霊を召喚するパフォーマンスで環境問題を鋭く批評するクウワイ・サムナン、高度情報化社会と新自由主義が可能にしたギグエコノミーやプラットフォーム労働の問題を扱う



シプリアン・ガイヤール《Artefacts》2011年  
フィルム（HDから35ミリフィルムに変換）、サウンド、ループ 国立国際美術館蔵 ©Cyprien Gaillard  
Courtesy the artist and Sprüth Magers



米田知子《絡まった有刺鉄線と花I（非武装地帯近く・チョルウォン・韓国）》2015年  
発色現像方式印画 作家蔵  
Copyright the artist Courtesy of ShugoArts



クウワイ・サムナン《Untitled》2011-13年  
5チャンネル・ビデオ（カラー、サウンド）  
国立国際美術館蔵  
©Khvay Samnang

キム・アヨンなど、さまざまな作品を通じて、世界で起こっている同時代的な危機や社会問題について考えます。

### ◎映像表現の新たな可能性を目撃する

本展では、8作家中7作家の作品が映像によるインスタレーション作品を発表します。

3Dアニメーションと実写を組み合わせた短編映画のような映像で観客を魅了するキム・アヨン、作家自身による体当たりの行為を美しいモノクロ表現で見せる潘逸舟、作家の等身大のコミュニケーションを元にした映像作品を通じて、社会が抱える難題にアプローチする手がかりを探る高橋喜代史、創意を凝らした撮影技術で驚くべき精緻な映像世界を提示する袁廣鳴(ユエン・グァンミン)。クウワイ・サムナンによる5チャンネルの映像インスタレーション作品、映像を絵画的に用い、詩的な美しさを湛えるリー・キットの新作インスタレーションなど、バラエティに富んだ映像の表現を一堂にご覧いただけます。

### ◎世界的に活躍する注目作家の話題作・新作を紹介

台湾のビデオ・アートシーンを牽引してきた映像作家の袁廣鳴(ユエン・グァンミン)は、昨年のヴェネチア・ビエンナーレ台湾館のために制作・発表した話題作《日常戦争》(2024年)を、国内の美術館では初めて展示します。

韓国のキム・アヨンは、本展出品作《デリバリー・ダンサーズ・スフィア》(2022年)で、アルス・エレクトロニカ賞のニュー・アニメーション・アート部門にて2023年にゴールデン・ニカ賞(グランプリ)を受賞。昨年は韓国の国立アジア文化殿堂(ACC)にて第一回のフューチャー・プライズを受賞しました。現在、世界各国で個展が開催される、世界的に注目される作家です。

《日常戦争》《デリバリー・ダンサーズ・スフィア》は、いずれも国立国際美術館に昨年度収蔵され、本展で初のお披露目となります。

香港出身、台湾に拠点を置き世界的に活躍するリー・キットは、2018年に原美術館(東京)で開催され大きな話題となった個展「僕らはもっと繊細だった。」(We used to be more sensitive.)以来の、国内の美術館でのまとまった新作の発表となります。新作タイトルは「僕らはもっと分別があった。」(We used to be more sensible.)、ぜひご期待ください。

リー・キット 《Tearing the world apart, yet achieving absolutely nothing.》2025年  
Courtesy of the artist / Lee Kit



キム・アヨン 《デリバリー・ダンサーズ・スフィア》2022年 シングルチャンネル・ビデオ(フルHD、カラー、サウンド) 国立国際美術館蔵 ©Ayoung Kim Courtesy the artist



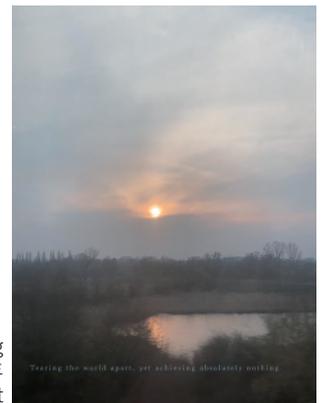
潘逸舟 《わたしは家運び、家はわたしを移す》2019年 ダブルチャンネル・ビデオ(モノクロ、サウンド) 国立国際美術館蔵 ©Ishu Han



高橋喜代史 《POSTER》2018年 タグチアートコレクション/タグチ現代芸術基金蔵 シングルチャンネル・ビデオ(カラー、サウンド)、ポスター ©Kiyoshi Takahashi Courtesy the artist



袁廣鳴(ユエン・グァンミン) 《日常戦争》2024年 シングルチャンネル・ビデオ(カラー、サウンド) 国立国際美術館蔵 ©Yuan Goang-Ming Courtesy the artist and TKG+



PRESS RELEASE

特別展「非常の常」

2025年6月28日（土）-10月5日（日）

会 期 2025年6月28日（土）-10月5日（日）  
会 場 国立国際美術館 地下3階展示室（〒530-0005 大阪市北区中之島4-2-55）  
開館時間 10：00-17：00、金曜・土曜は20：00まで ※入場は閉館の30分前まで  
休 館 日 月曜日（ただし7月21日、8月11日、9月15日は開館）、7月22日、8月12日、9月16日  
主 催 国立国際美術館  
協 賛 公益財団法人ダイキン工業現代美術振興財団  
助 成 一般財団法人安藤忠雄文化財団

観 覧 料 一般1,500円（1,300円）大学生900円（800円）  
（ ）内は20名以上の団体及び夜間割引料金（対象時間：金曜・土曜の17：00-20：00）  
高校生以下・18歳未満無料（要証明）  
心身に障がいのある方とその付添者1名無料（要証明）  
本料金で、同時開催のコレクション展もご覧いただけます。

関連イベント

○「高橋喜代史《フリー・スイカ・バー》パフォーマンス」

日時：2025年6月28日（土）、10月5日（日）いずれも14：00より（終了時間未定、ただし最長17：00まで）

会場：国立国際美術館正面玄関前 ※雨天の場合、内容を変更し館内で実施

参加費無料

参加者にはスイカジュースを配布します。

○トーク・イベント「非常の時代のアテンション」

日時：2025年8月3日（日）14：00-16：00（予定）

会場：B1階講堂

登壇者：岡田温司（京都大学名誉教授）、石谷治寛（広島市立大学芸術学部准教授）、大木美智子（ロンドン大学専任上級講師）、橋本 梓（本展企画担当、当館主任研究員）

定員：100名（当日10：00からB1階インフォメーションにて整理券を配布します（お一人様1枚））

参加費無料

○ドキュ・アットアンシアター#大阪

日時：2025年8月24日（日）14：00-16：00（予定）

会場：B1階講堂

定員：100名（当日10：00からB1階インフォメーションにて整理券を配布します（お一人様1枚））

企画協力：ドキュ・アットアン

ミャンマーでは2021年の軍によるクーデター以後、多くのジャーナリストやアーティストが国を追われ、命を奪われる状況にあります。

ドキュ・アットアン（Docu Athan）は、ミャンマーで拘束された経験を持つジャーナリストの北角裕樹とドキュメンタリー作家の久保田徹の発案から生まれた、ミャンマー人のクリエイター（ジャーナリスト / 映像制作者 / アーティストなど）支援のためのオンラインプラットフォームです。アットアンはミャンマー語で声や意見を意味します。オンラインプラットフォームのみならず、上映会を開催して作品を日本に紹介するなど、さまざまなかたちで制作を支えることで、ミャンマーのクリエイターたちが集う場としての役割を果たすことも目的としています。ウェブ

## PRESS RELEASE

特別展「非常の常」

2025年6月28日（土）- 10月5日（日）

サイトでは作品を無料で視聴できるほか、クリエイターに寄付を行うことができる仕組みが設けられています。今回の上映会では、ミャンマーのクリエイターたちによる映像作品の上映会に加え、2025年3月28日に発生したミャンマー地震での現地の様子についても報告する貴重な機会となります。

### ○展覧会見どころ解説

日時：2025年9月15日（月・祝）14：00-15：00（予定）

会場：B1階講堂

講師：橋本 梓（本展企画担当、当館主任研究員）

定員：100名

参加費無料

### 一般のお客様からのお問い合わせ先

国立国際美術館 TEL：06-6447-4680（代表） URL <https://www.nmao.go.jp/>

### 交通アクセス

京阪電車中之島線「渡辺橋駅」（2番出口）から南西へ徒歩約5分、Osaka Metro 四つ橋線「肥後橋駅」（3番出口）から西へ徒歩約10分、J R「大阪駅」、阪急電車「大阪梅田駅」から南西へ徒歩約20分、J R大阪環状線「福島駅」から南へ徒歩約15分、J R東西線「新福島駅」（2番出口）、阪神電車「福島駅」（3番出口）から南へ徒歩約10分、Osaka Metro 御堂筋線「淀屋橋駅」、京阪電車「淀屋橋駅」（7番出口）から西へ徒歩約15分

大阪シティバス「大阪駅前」から、53号・75号系統で、「田蓑橋」下車、南西へ徒歩約3分（お帰りのJR大阪駅方面最寄バス停は「渡辺橋」になります）

※当館には専用駐車場はありません。ご来館は電車・バス等をご利用ください。

※心身に障がいのある方で、車で来館される場合は、当館近隣の有料駐車場をご利用くださいますようお願いいたします。

### 広報画像ご使用にあたってのお願い

本展の広報を目的とした場合に限り、ご使用いただけます。「広報画像申込書」にて申請していただきますようお願いいたします。

「広報画像申込書」は、国立国際美術館のホームページからダウンロードしていただけます。

国立国際美術館「プレスの方へ」 URL <https://www.nmao.go.jp/press/>

画像の使用にあたって、次の点をお守りいただきますよう、お願いいたします。

- ・画像と一緒に送るキャプション及びクレジットを明記してください。
- ・画像のトリミングや、画像に文字を重ねての使用はできません。
- ・インターネットに掲載する場合は、無断転載禁止の旨を明記のうえ、ダウンロードできないように加工してご使用ください。
- ・会期・会場・画像キャプションなどの確認のため、ゲラ刷り・原稿段階で広報担当までメールまたはFAXにてお送りください。
- ・掲載（放映）終了後に、掲載出版物または録画メディアを広報担当宛にお送りください。
- ・インターネットに掲載した場合は、URLをお知らせください。
- ・画像の二次利用や転載はお断りいたします。使用後は画像データを破棄してください。

### 広報に関するお問い合わせ先

国立国際美術館 広報担当 太田道子

E-mail：kouhou@nmao.go.jp TEL：06-6447-4671（直通） FAX：06-6447-4699

### 企画担当

橋本 梓（国立国際美術館 主任研究員）